事例No.	1258
公表年度	R2
団体の属性	町村
団体名	愛知県南知多町

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・地域運営組織 ・観光

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

「ふるさと回帰による関係人口創出」事業

出典

令和２年度「関係人口創出・拡大事業」モデル事業調査報告書

(14) 愛知県南知多町

事業名：「ふるさと回帰による関係人口創出」事業

取組の概要

篠島の主要産業である漁業や観光業の担い手不足という課題解決に向けて、篠島出身者等のゆかりがある人とのつながりを活かし、地域資源を活かしたビジネスプランを検討。

主な成果

名古屋圏で 10 名、東京圏で 4 名が、関係人口ネットワークに登録した。複数のビジネスプランが検討され、最終的に３つのビジネスプランに可能性を見出し、次年度以降の事業に活用していくビジョンを構築した。

①事業の背景・目標

1) 関係人口によって解決・改善を図りたい地域課題

・篠島は、進学や就職に伴う都市部への人口流出、それに伴う少子高齢化が年々進んでいる。特に、篠島の主な産業である漁業と観光業での担い手不足は深刻で、事業継承、さらには定住人口の維持が課題となっている。

・このことから、名古屋圏や首都圏に在住して活躍する、篠島出身者やその子、孫世代といった「篠島にゆかりがある人」という強いつながりを持つ人材を関係人口に位置づけ、そのつながりを活かし、自然、歴史、文化、空き家などの地域の資源を活用したビジネスプランを検討し、豊かな自然環境の管理と歴史・文化の継承を図る。

2) 概ね５年後の地域の理想の姿

・名古屋圏・首都圏でのネットワークを介して、篠島内外の交流が活発になり、篠島の魅力や資源を活かした新たな事業創出につながっている。

・島内でのイベントへ関係人口が参加をすることで、歴史・文化の継承が望まれ、地域活性化につながる。また、篠島で活躍する人が都市部で島の魅力を発信するイベントに、関係人口が調整役などを担うことで、双方向の情報交流・発信ができる仕組みが構築される。

・本事業で検討されたビジネスプランを参考にしたビジネスを通じて篠島に継続的に関わりをもつ者がいる。

3) これまでに取り組んできた関係人口関連施策の実施状況・成果

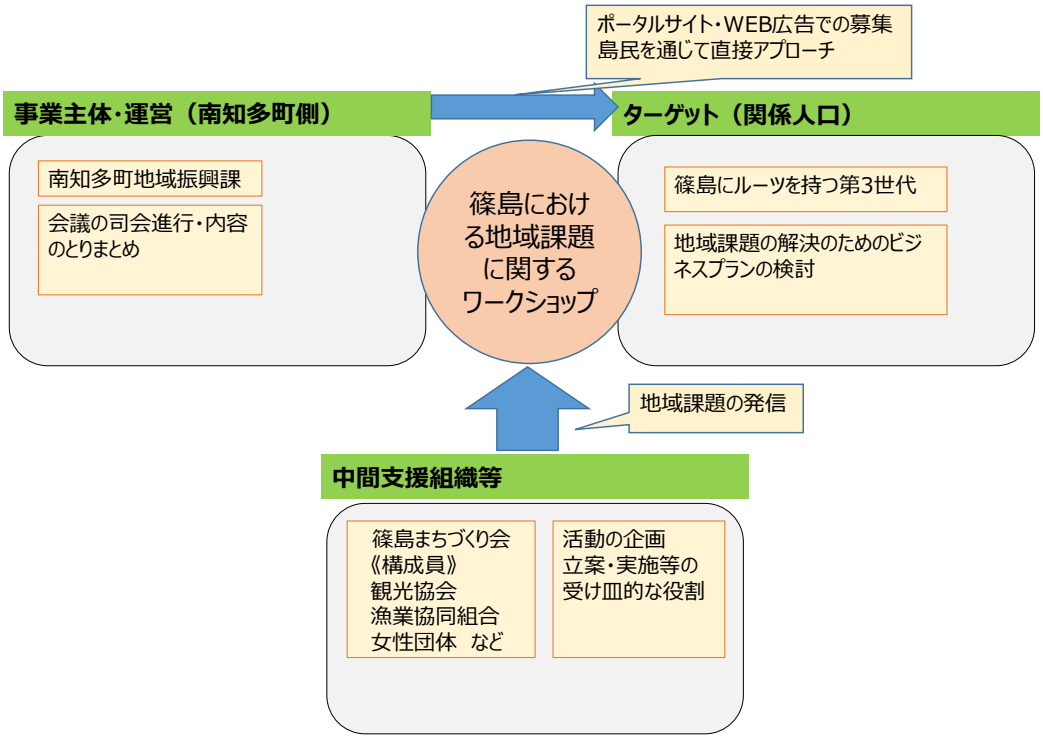
・平成 24 年度から離島の PR 等の情報発信の一つとして、関係人口確保のため、空き家情報を発信してきた。また、愛知県事業「あいちの離島関係人口創出事業」として令和元年度より、関係人口への理解を深め、島内の受入体制を構築し、島の課題を洗い出すための地元勉強会やメディアや SNS を通じた情報発信、都市部での対面 PR などを実施してきた。

4) 今年度事業の目標

目標	篠島を外からの視点で発掘してもらい、地元イベント等への参加を通し、理解度の深層化を図り、ビジネスプランの検証を行う。
成果指標	関係人口ネットワークへの参加者
目標値 （基準値）	名古屋圏 50 人（基準値：０名（2019 年度）） 首都圏 20 人（基準値：０名（2019 年度））

②事業実施体制

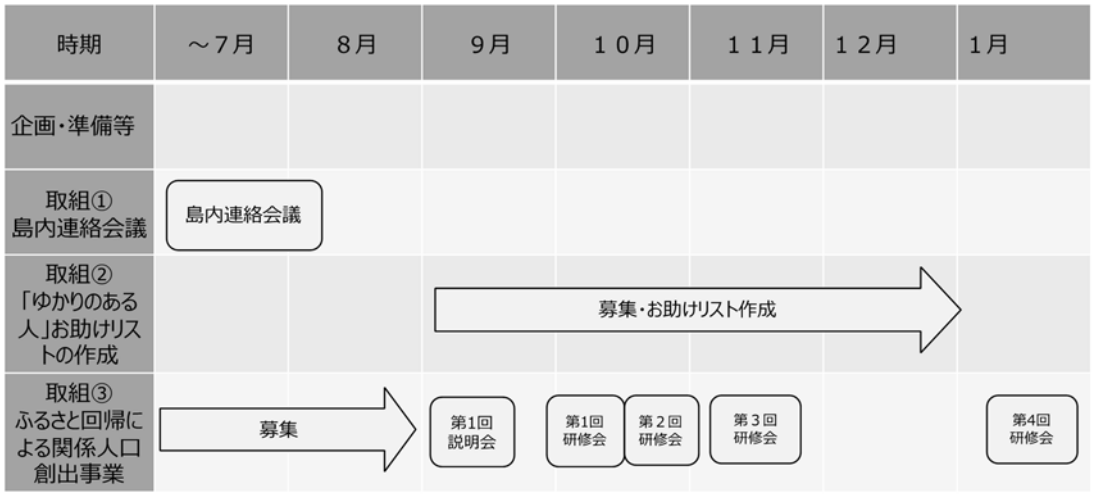
区分	団体・組織名称	役割
行政	南知多町地域振興課	委託事業の管理、募集・広報の戦略策定・とりまとめ
中間支援	南知多町地域振興課	関係人口の想いやニーズ把握を行う
地元関連団体	篠島まちづくり会	活動の企画立案・実施等の受け皿



③ターゲット設定とアプローチ方法

ターゲット層	アプローチ（情報発信）方法	期待する役割・関わり方
篠島と関係を持つ第３世代	総務省ポータルサイトおよび ホームページ・WEB 広告 島民を通じた働きかけ	歴史・文化の継承 産業の担い手不足解消のためのビジネスプランの構築 今後形成される関係人口ネットワークの核

④事業スケジュール



⑤取組の内容

【取組1　島内連絡会議発足プロジェクト】

目的と概要

・篠島における、現状の地域課題の洗い出しと、関係人口に関する理解を深めるため、篠島地区の住民を対象に、篠島島民会議を３回開催した。

開催日時

・７月１日、７月 20 日、８月 24 日

開催場所

・篠島開発総合センター

参加者

・52 名

開催状況

・島内での関係人口候補者の紹介依頼及び、地域課題の募集チラシの作成を行い、島内外に向けた情報の発信を開始するための最終調整をおこなった。また、島民に向けた募集チラシの全戸配布・回収の手順を協力団体と最終調整をおこなった。

成果等

・島内の協力団体との支援候補者の募集方法などのきめ細かな内容についての最終調整をおこない、島内における関係人口候補者の募集チラシの全戸配布後の事業内容の全島民への理解度につながった。また、チラシの回収方法等の再確認を行い、募集に際しての漏れの無いよう調整を図ることができた。





【取組2 「ゆかりのある人」お助けリスト作成プロジェクト】

目的と概要

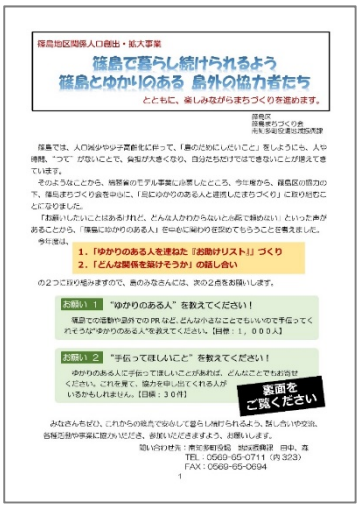
・篠島の関係人口となりえる候補者の募集のため、篠島の住民 620 世帯を対象に、チラシによる募集を行った。

実施日

・９月１日

成果等

・島内より５名の候補者の紹介を頂いた。最終的には 24 名がお助けリストに登録された。


篠島地区関係人口創出・拡大事業

篠島で暮らし続けられるよう
篠島とゆかりのある 島外の協力者たち

ともに、楽しみながらまちづくりを進めます。

篠島では、人の減少や少子高齢化に伴って、「島のためにしたいこと」をしようにも、人や機械、つて がないことで、負担が大きくなり、自分たちだけではできないことが増えてきています。

そのようなことから、特別養のモデル事業に応募したところ、今年度から、篠島区の協力の下、篠島まちづくり会を中心に、「元にゆかりのある人と連携したまちづくり」に取り組むことになりました。

「お願いしたいことはあるけれど、どんな人かわからないと余計で頼めない」という声があることから、「篠島にゆかりのある人」を中心に繋がり登録のご協力をお願いすることとなりました。

今年度は、

1.「ゆかりのある人を連ねた『お助けリスト』」づくり
2.「どんな関係を築けそうか」の話し合い

の２つに取り組みますので、島のみなさんには、次の２点をお願いします。

お願い１ “ゆかりのある人”を教えてください！

篠島での活動や島外での PR など、どんな小さなことでもいいので手伝ってくれそうな“ゆかりのある人”を教えてください。【目標：１，０００人】

お願い２ “手伝ってほしいこと”を教えてください！

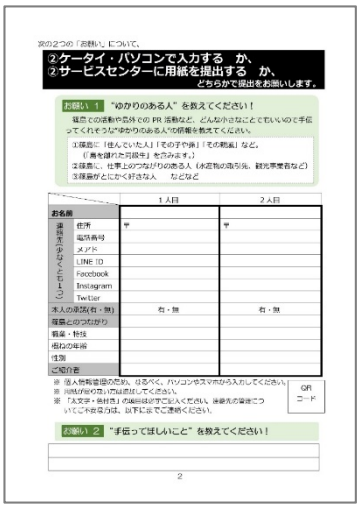
ゆかりのある人に手伝ってほしいことがあれば、どんなことでもお知せください。これを見て、協力を申し出てくれる人がいるかもしれません。【目標：３０件】

裏面をご覧ください

みなさんをはじめ、これからの島内で安心して暮らし続けられるよう、楽しみながら交流、各種活動や事業に協力いただき、お願いいたします。

問い合わせ先：南知多町役場 地域振興課 田中、森
TEL：0569-65-0711（内 323）
FAX：0569-65-0694

1


次の２つの「お願い」について、

②ケータイ・パソコンで入力する か、
②サービスセンターに用紙を提出する か、
どちらかで提出をお願いします。

お願い１ “ゆかりのある人”を教えてください！

篠島での活動や島外での PR 活動など、どんな小さなことでもいいので手伝ってくれそうなゆかりのある人々の情報を教えてください。

①篠島に「住んでいた人」「その子や孫」「その親戚」など。
（「島を離れた同級生」も含みます。）
②篠島に、仕事上のつながりのある人（水産物の取引先、観光事業者など）
③篠島がとにかく好きな人 などなど

		1人目	2人目
お名前			
連絡先（どれか１つでもOK）	住所	〒	〒
	電話番号		
	メアド		
	LINE ID		
	Facebook		
	Instagram		
	Twitter		
本人の承諾（有・無）		有・無	有・無
篠島とのつながり			
職業・特技			
祖父の年齢			
性別			
ご紹介者			

※ 個人情報保護の為め、なるべく、パソコンやスマホから入力してください。
※ 同じ方の情報は１つにまとめてください。
※ 「太文字・赤字」の項目は必ずご記入ください。（複数人の場合につきましては、以下にまでご連絡ください。

お願い２ “手伝ってほしいこと”を教えてください！

2

【取組3 ふるさと回帰による関係人口創出プロジェクト】

目的と概要

・篠島における地域課題の解決のため、名古屋圏・東京圏を対象に、説明会及び研修会を６回開催した。

開催日時・場所

＜説明会＞東京会場（渋谷区）：９月 26 日(土)
名古屋会場（名古屋市）：９月 27 日(日)
＜研修会＞名古屋会場（名古屋市）：10 月 17 日(土)、10 月 25 日(日)、
11 月 15 日(日)、１月 23 日(土)
※東京会場の研修会（全４回）はコロナのため中止

参加者

・64 名

成果等

・「よそ者」でもなく、「島民」でもない「ゆかりのある人」だからこそ発信できる意見があり、島民の納得を得る場面も多くあった。最終的に３つのビジネスプラン「しらす日本一プロジェクト」、「島の子学びサポートプロジェクト」、「篠島ほっこりコーヒープロジェクト」に可能性を見出し、次年度以降の事業に活用していくビジョンを構成した。また、本格的なビジネスプランの構築に必要な次年度



以降の課題も検討し、関係人口と地域間の中間組織の形成と、ビジネスの形成に必要な資金的な支援を課題として設定した。

【取組4　その他取組】

目的と概要

・海洋プラスチックごみの問題を通じて島民自ら気づき発信・取組を行うことで身近な問題や出来事に関心を持つためのきっかけをつくる。

開催日時

・10 月 18 日(日)

開催場所

・篠島漁業共同組合　３階会議室

参加者

・40 名(篠島の子供およびその家族が中心)

成果等

・漁業や海水浴など「海」に密接に関係している篠島において、海洋プラスチックごみの問題に取り組むことで、島の身近な問題として気づき、今後の篠島をどうしていきたいか考えることで地域の問題を参加者に関心を持ってもらうきっかけづくりとなった。また、海洋科学の専門家とリモートにて質疑応答をすることで、島内で取組をおこなわなくとも遠隔での活動が可能となったことから継続的な取組となっていくことが期待できる。この取組をきっかけに、20年ほど前から閉鎖しているゴルフ場の利活用について検討するきっかけづくりにもなった。



⑥事業成果

1) 取組ごとの成果発現プロセス

取組名		取組①：島内連絡会議プロジェクト	取組②：「ゆかりのある人」お助けリスト作成プロジェクト	取組③：ふるさと回帰による関係人口創出プロジェクト
取組の結果（アウトプット）		実施回数：3回 参加人数：52名	実施回数：1回 対象世帯数：620世帯	実施回数：6回 全参加人数：64名
取組の成果（アウトカム）	関係の創出・深化に関する成果	地元の受入主体となる篠島まちづくり会を中心に事業の説明、地元の課題を洗い出す方法など積極的に意見交換を行った。	篠島活性推進会委員に対して配布前に説明。支援候補者の紹介に係る調整並びに回収方法を確認し配布を行った。	コロナの影響により東京会場が一度しか開催できなかったが、名古屋会場にてオンラインで参加をし、活発な議論ができた。
	地域にもたらされた成果	地元区長へ事業の周知をおこなえたことで取組②での配布が迅速に行うことができた。	当初は5名の方が島内からの紹介で助っ人リストに登録された。 最終的には24名が助っ人リストに登録された。	研修会を通して名古屋圏で10名、首都圏で4名の関係人口が創出。 (報道関係、トレーニング指導士、中小企業診断士等)
今年度事業の目標達成状況		関係人口ネットワーク登録者数 名古屋圏：10名　東京圏：4名		

2) 本事業全体を通じた成果

・ふるさと回帰による関係人口創出プロジェクトの研修会を通じて、３つのビジネスプランが提案された。

「日本一のしらす実現プロジェクト」

「みんなできれいにした海で捕れたしらす」としてしらすが捕れてから加工され販売されるまでをストーリー立てて、一つのパッケージとしてブランド化しPRをしていく。

「島の子学びサポートプロジェクト」

オンライン環境やタブレットなどのハード面を整備するとともに、子供を中心として島民全体の学びの場の提供を目指す。

「篠島ほっこりコーヒープロジェクト」

島内に滞在する時間を延ばし、隙間時間を有効的に活用する方法として、島民はコーヒーを入れる場所(宿、飲食店の一角)を提供、関係人口は定期的に訪問しおいしいコーヒーを提供することで島内での知名度を上げ、関係人口の活動の場を広げる。最終的には、コーヒーだけではなく「好きなことを島で発揮する場」として様々な料理を提供できる場になっていくことで、多くの関係人口に定期的に訪れてもらえるだけではなく、現地スタッフとして島内での雇用も生まれていく。

⑦事業を通じた課題・気づき等

1) 事業の目標設定と達成に関する課題・気づき

・関係人口ネットワークの参加者数が目標を下回った理由の一つとして、個人情報記入の必要があるお助けリストについて島民の方が紹介をためらうことがあった。島民の方へ、本事業の意義のさらなる周知が必要である。

2) 事業の実施体制に関する課題・気づき

・実施体制や役割分担についてはおおむね良好である。ノウハウや情報、技術については、関係人口からの情報提供もあり今後も、持続的に島外からの情報提供が見込める。

3) ターゲット設定や募集・情報発信等に関する課題・気づき

・島民やゆかりの人を通して、篠島に対する想いのある人・何か実践したい人に呼び掛けたことで、参画を促せた。しかし、島民が本事業の意義や個人情報管理の面で「ゆかりのある人」の紹介をためらう雰囲気があり、多くの人に働きかけられなかった。事務局が候補者に連絡しても反応がない場合も多々あり、呼びかけ方や説明方法にも工夫が必要である。

4) 各取組の実施・運営に関する課題・気づき

・関係人口として篠島で実施する活動やその支援策などを、関係人口と島民の方と議論し、次年度へ向けた活動の方向性を提案できた。今後は、コロナの影響を考慮してオンラインでの打合せの場の整備が必要と考える。

⑧今後の関係人口創出・拡大に向けた展望

1) 本事業の成果の今後の活用・発展方向について

・今年度事業では、ゆかりのある人だからこその視点でできること・したいことを話し合い、次年度の活動の方向性が定まったと考える。今後は、ゆ

かりのある人としてさらに「他の人にはできない・すべきこと」の視点で課題解決へ向けて島民と一緒に取り組むネットワークを構築していく。

2) 地域における関係人口への期待について

・よそ者や島民でなく「ゆかりある人」だからこそ、言えたことや、島民が納得したこともあった。「島に対する想い」あっての奉仕の気持ちをくみ取り、今後の島の活性化・課題解決に島民と一緒に取り組んでいく。

3) 今後の関係人口創出・拡大に向けた政策等について

・今年度事業で提案された３つのビジネスプランを次年度で実現させていくためには、より多くの関係人口と島民の協力を得るため、本事業の意義をより広く周知させることが必要である。

・ゆかりのある人の有志でメーリングリストがつくられ、自主的に意見交換がされており、検討したプロジェクトが実現されようとしているため、このつながりをさらに拡大し、強固なものにしていく取組も必要となる。

4) 地域における持続的な受入の体制・仕組みについて

・本事業を持続させるために「ゆかりのある人」戦略窓口の設置、活動のための資金の募集方法を考えている。

・島内の事務局として、関係人口になった方との連絡や調整を担う機能があることで円滑な活動の補助が可能になると考えている。

・今後の活動資金調達のため、クラウドファンディングの活用や、ふるさと納税の使途に「篠島のために」を追加することが望まれている。